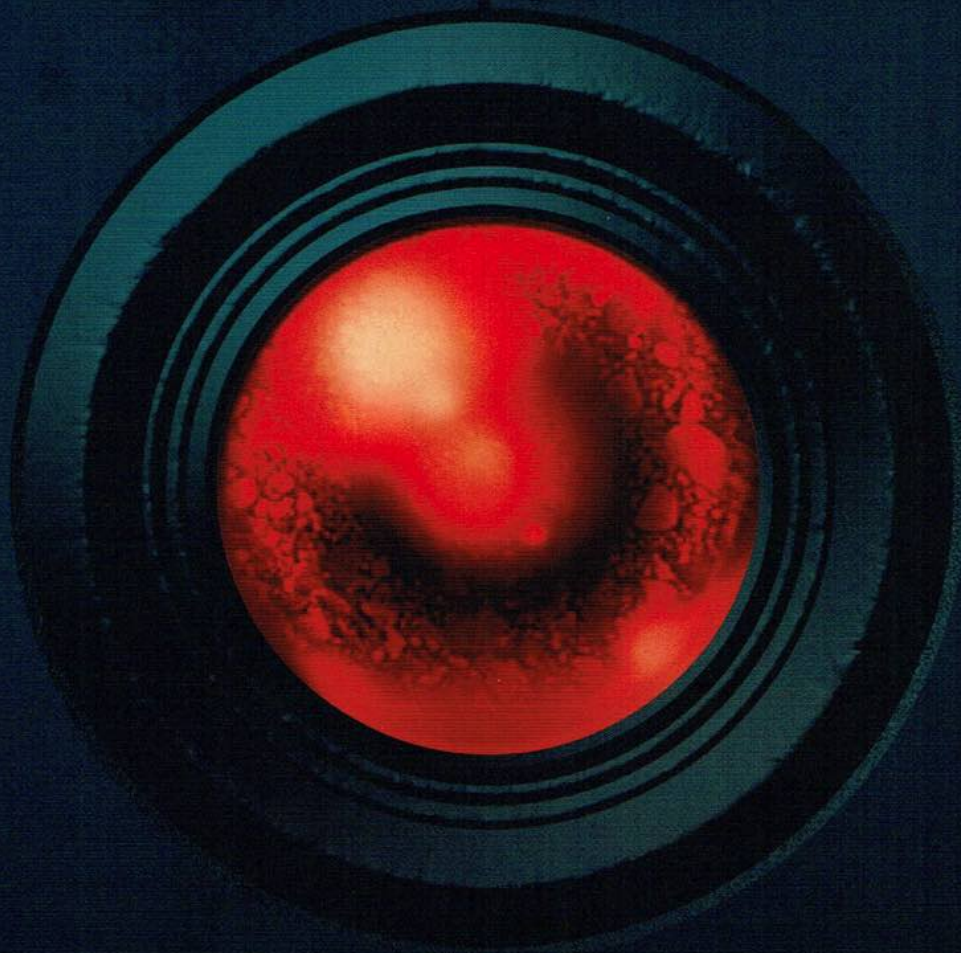




ゼノビアの揺り籠

VICTIMS
PHOTOGRAPH



ジルの体を抱きかかえたウーズはウエットスーツを引き裂くと露になった股間に滴る粘液を擦り付ける。そのおぞましさに顔をしかめるジル。だがすぐにそれは苦痛の悲鳴に変わる。ウーズの粘液はある種の潤滑油の役目を果たしてしまったのだろう。人のそれを遙かに凌駕するサイズでありながらウーズのペニスはその容易く、そして強引にジルの体を割り咲いた。

それは一突きごとに息の詰まるような痛苦をジルに与える。

それも性器ではなくアヌスへと侵入してきたのだ。

ウーズには、そこが性交に使用する器官であるという認識すら無いのであるう。

暖かい人間の体内であれば何でも良いといわんばかりに、

そしてまだ生ある人間への憎しみに囚われるかのように生ける屍である自身の分身を幾度も叫きつけていた。

ウーズの頭部が歪みながらシルの膣内へねじ込まれていく。かつて、自分の生まれたところに帰しようとしているのだろうか。それとも命無き者として生命の根源への渴望なのだろうか。だが、その行為は恐ろしいほどに破壊的だった。ペニスとは比べ物にならない巨大な質量がシルの体を引き裂いていく。筋繊維が引きちぎれ、股関節が軋むように悲鳴を上げる。

化け物の醜い頭部が埋没し、そこは醜く膨らんだ自身の腹が見えた。それはウーズの頭が子宮まで入り込んでいることの証だった。

シルは耳に聞こえる絶叫が自身を感じている激痛によるものか、この異常な光景に狂いそうな自分の心が上がっているものなのか、もはや理解できなくなかった。自分の体内にあの溶けたおそましいウーズの頭部がある。ウーズの舌が子宮内の粘液を嘗め回す感覚を感じ取った時、シルは意識を手放した。

凄絶な陵辱に氣を失ったジルは耳に届くもぐった悲鳴に意識を取り戻した。体を襲う痛みと圧迫感はいまだ自分が体を弄ばれていることを否応なしに実感させられる。化け物たちはジルの意識など関係なく犯し続けているのだった。

ウーズに輪姦されながら霞む視界の隅に捉えたのはウーズの群れに捕えられたウェットスーツの女性BSAAのエージェント、ジェシカ・シエラワットだった。ジルの体にあぶれたウーズたちは我先に新たな獲物のジェシカを犯し始めた。

ペニスをねじ込み射精をしては次のウーズがペニスを唾えさせる。

口内に出された精液を吐き出す間もなく繰り返されていく陵辱。

端正な顔は恐怖と恥辱に彩られ、生臭い精液に塗れていった。

幾匹ものウーズに犯されたのだろう
ジェシカに小山のような腐肉の集団が群がった後は目を背けたくなるほどの惨状だった。
辺りには床や壁を問わず夥しい量の精液が滴り落ち生臭い腐臭が立ち込めている。



既に心は陵虐によって壊れているのだろう。
口や性器からは虚ろな言葉と共に注ぎ込まれた精液を垂れ流し、
光を失った瞳は暗闇の虚空を彷徨っている。
彼女の哀願も悲鳴もウーズ達が聞き入れることは無く、
ただ白濁の欲望の粘液を吐き出していったのだった。

極度に肥大化したウーズたちがシルの体を掴み上げる。眼前に突きつけられたウーズの巨大なペニス。この化け物たちはあんなものを自分の体にねじ込もうというのだろうか。心は恐怖と絶望の悲鳴を上げようとしたが凄惨な陵辱により満身創痍のシルの口から漏れたのは僅かに引きつった悲鳴だけだった。小さな玩具の人形を与えられたようにウーズたちはシルの体で遊び始める。一匹が終わればまた次の一匹がシルの体をひったくるように奪い取り容赦なく凶器とも言えるペニスを突き立てる。巨大で醜悪なペニスは掘削機のような勢いで挿入を繰り返す。

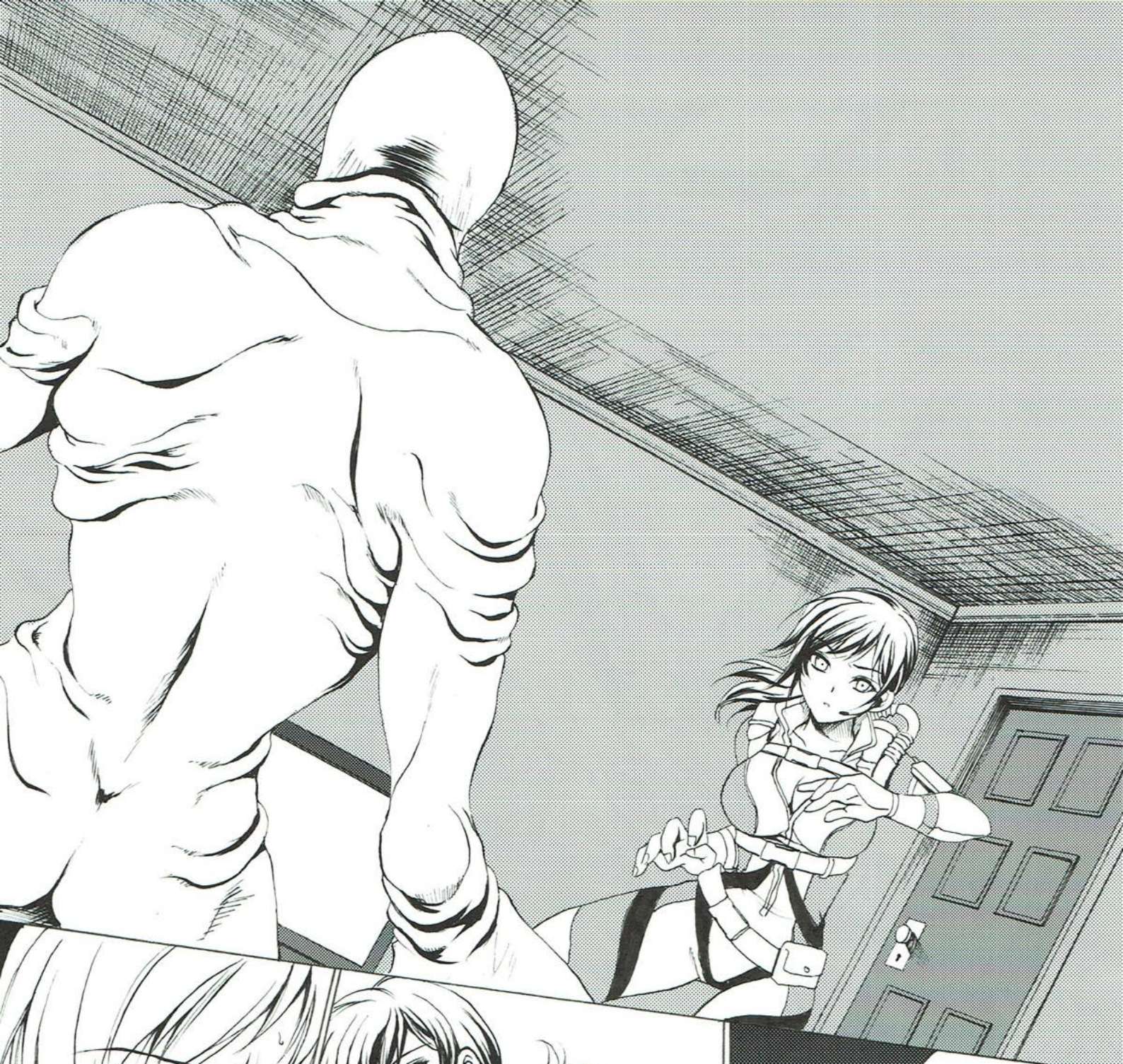
その衝撃は子宮から臓器にまで響いた。肺が圧迫され悲鳴を上げようにも壊れた空気が出せない。目の前には未だ無数のウーズが自分の番を待つかのように滾らせたペニスを屹立させている。

この化け物たちが全て満足しきるまで自分の体が無事であるとはシルには到底思えなかった。

ジルの体内に注ぎ込んだ大量の精液を押しとどめようとして
 しているのだろうか膝やアヌスには栓をする様に
 骨組織の変化した爪をねじ込まれていた。
 凄惨な陵辱によりひしゃげ広がり
 きった両穴は一本や二本では埋めきれず
 何本もの爪が精液を滴らせながら
 ひしめいている。
 それは水棲生物が群生する様にも
 似て異様な光景を作り出していた。

自分はこれからどうなるのだろうか
 安寧とも言える死ならまだ良い。
 だが、この地獄で再び化け物達の
 慰み者となるのか、
 それともウイルスに感染してしまうのか…
 もしくは…腹に溜め込まれた精液によって女として最も悲惨な結末を迎えるのか。
 ジルは腐った水のような精液の匂いの中、それ以上考えることを止めた。



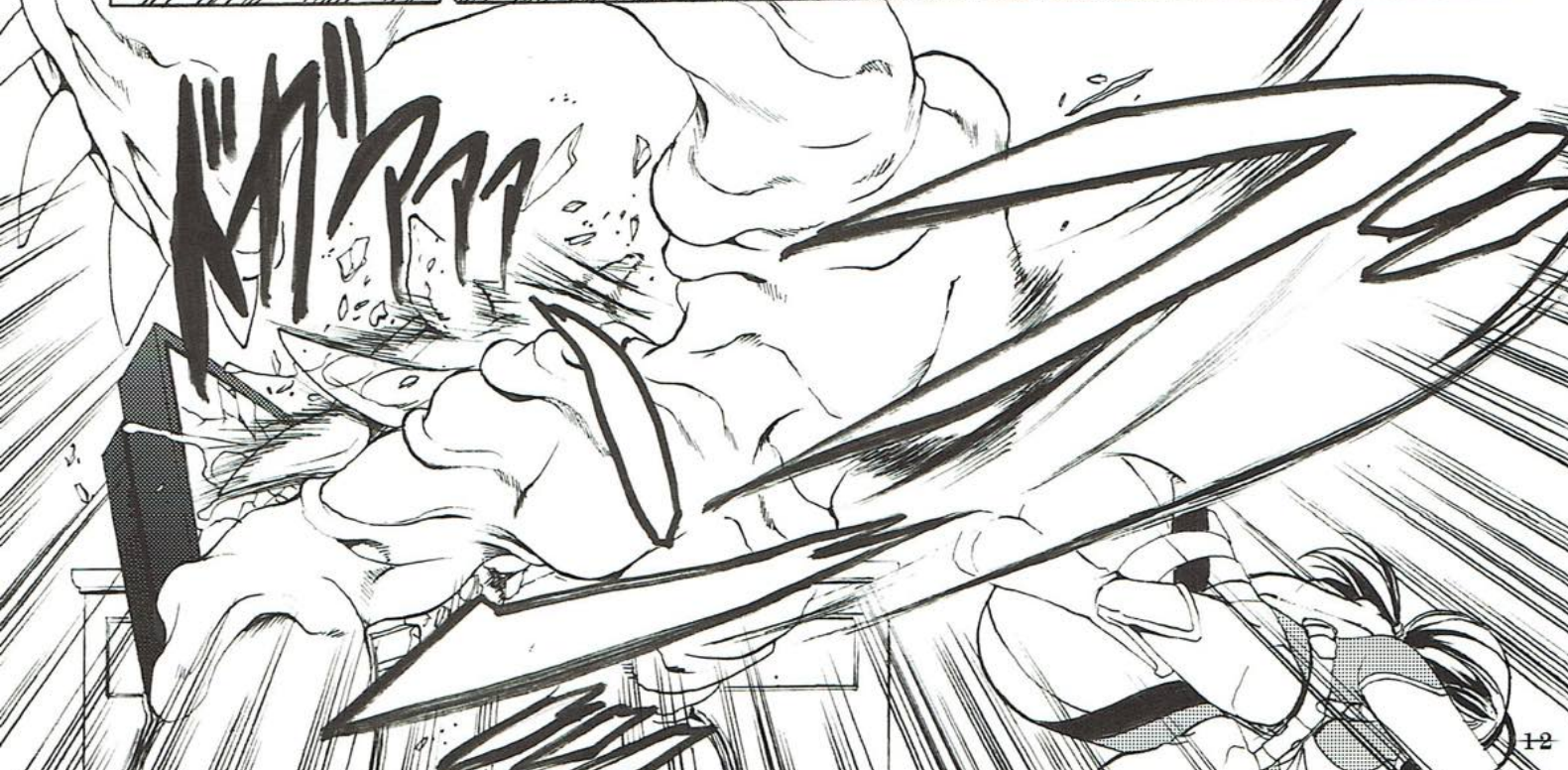
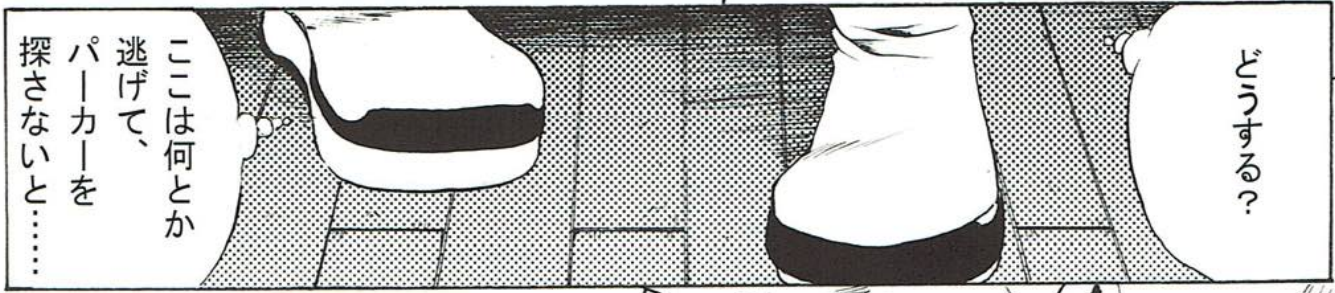


目が覚めたら
こんな所に……
ここは、客室？

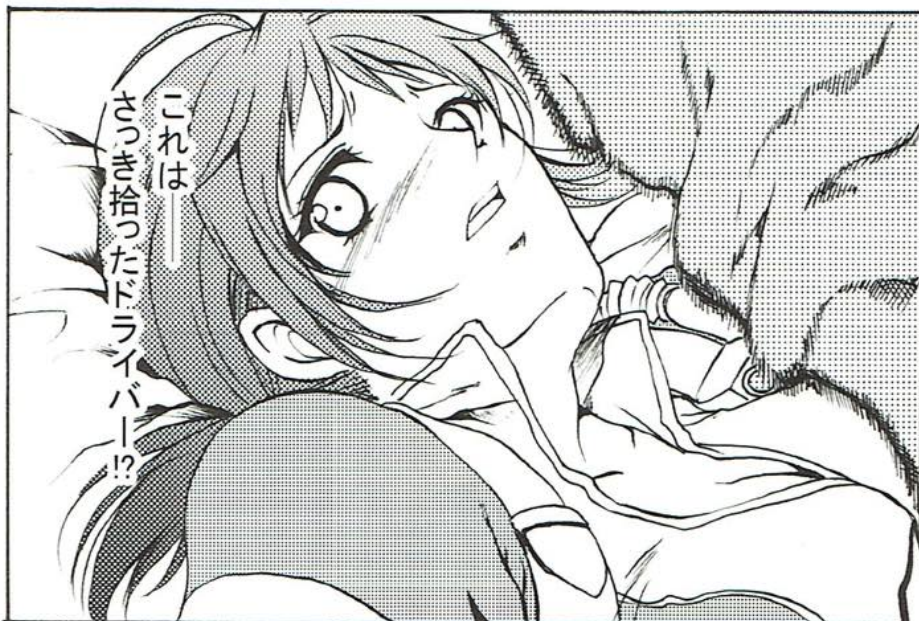


武器は取り上げ
られてるわね。
相棒
パーカーはいない……。

目の前にはウーズ。
予想しうる限り
最悪の状況ね。



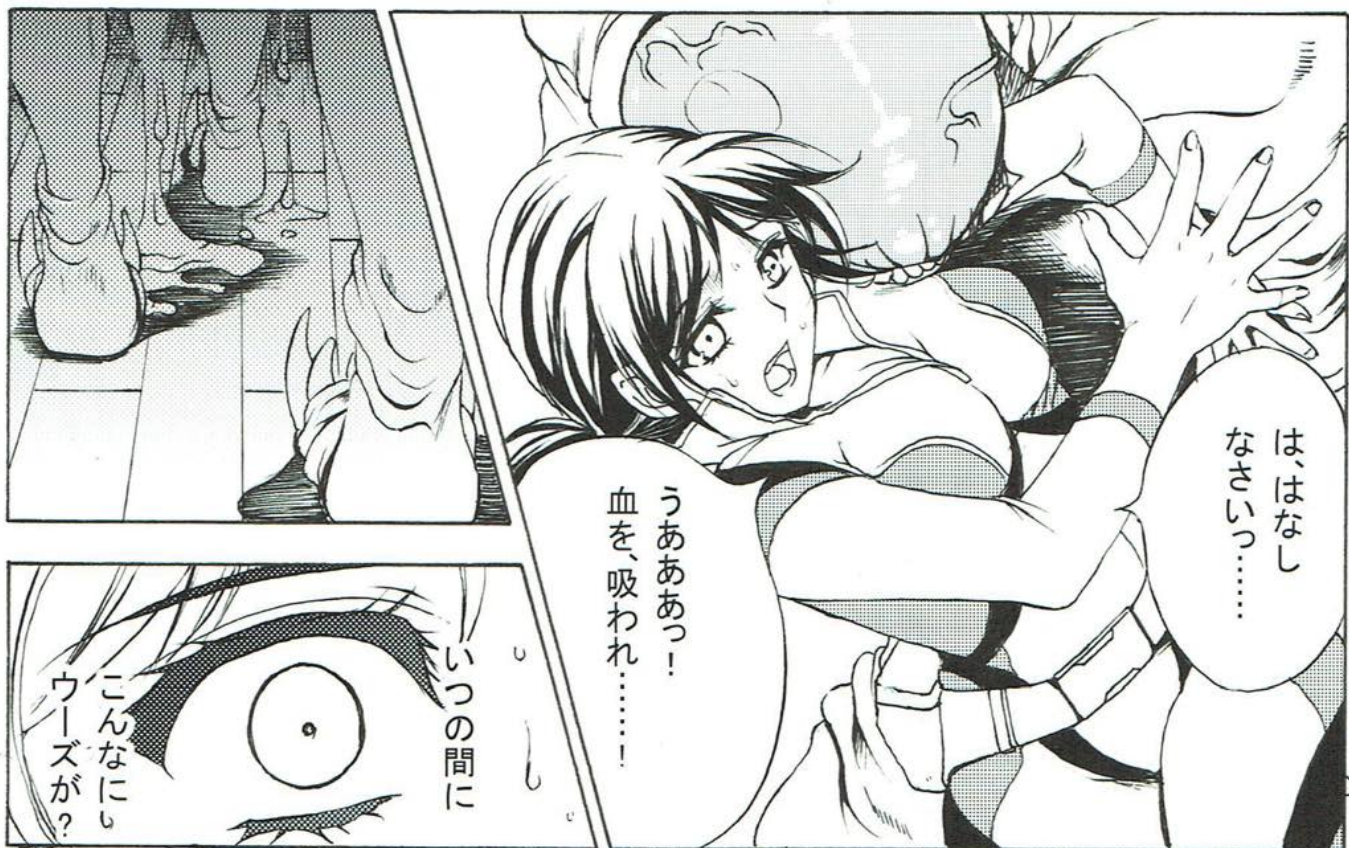


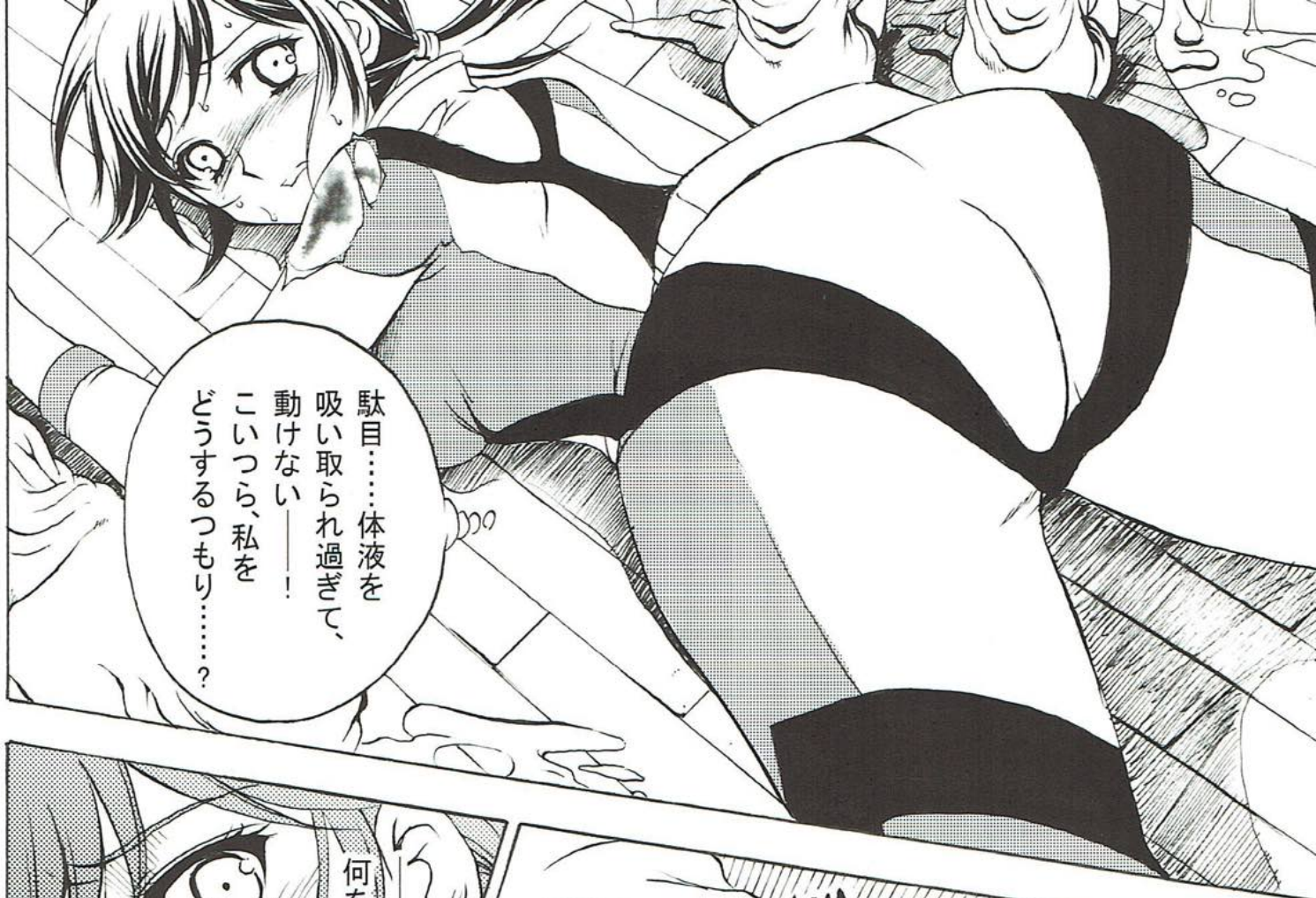


これは——
さっき拾ったドライバー!?



ジュン……ッ!!





駄目……体液を
吸い取られ過ぎて、
動けない——！
こいつら、私を
どうするつもり……？



な、何なの？
何を……？



やめてっ
まさか、そんな

いやあああっ！？



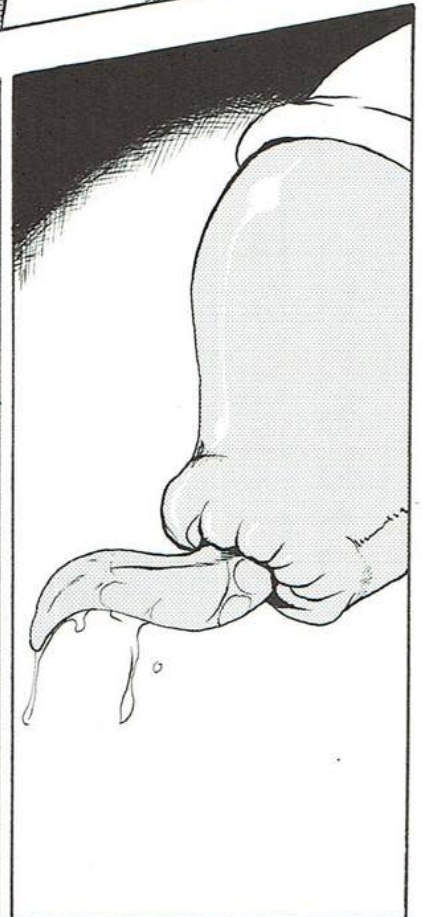
いやああああっ!!



やめてええっ!!

そんなところ、舐めるなんて……っ!!

はなしてっ、いや、いやああああっ!!……!!





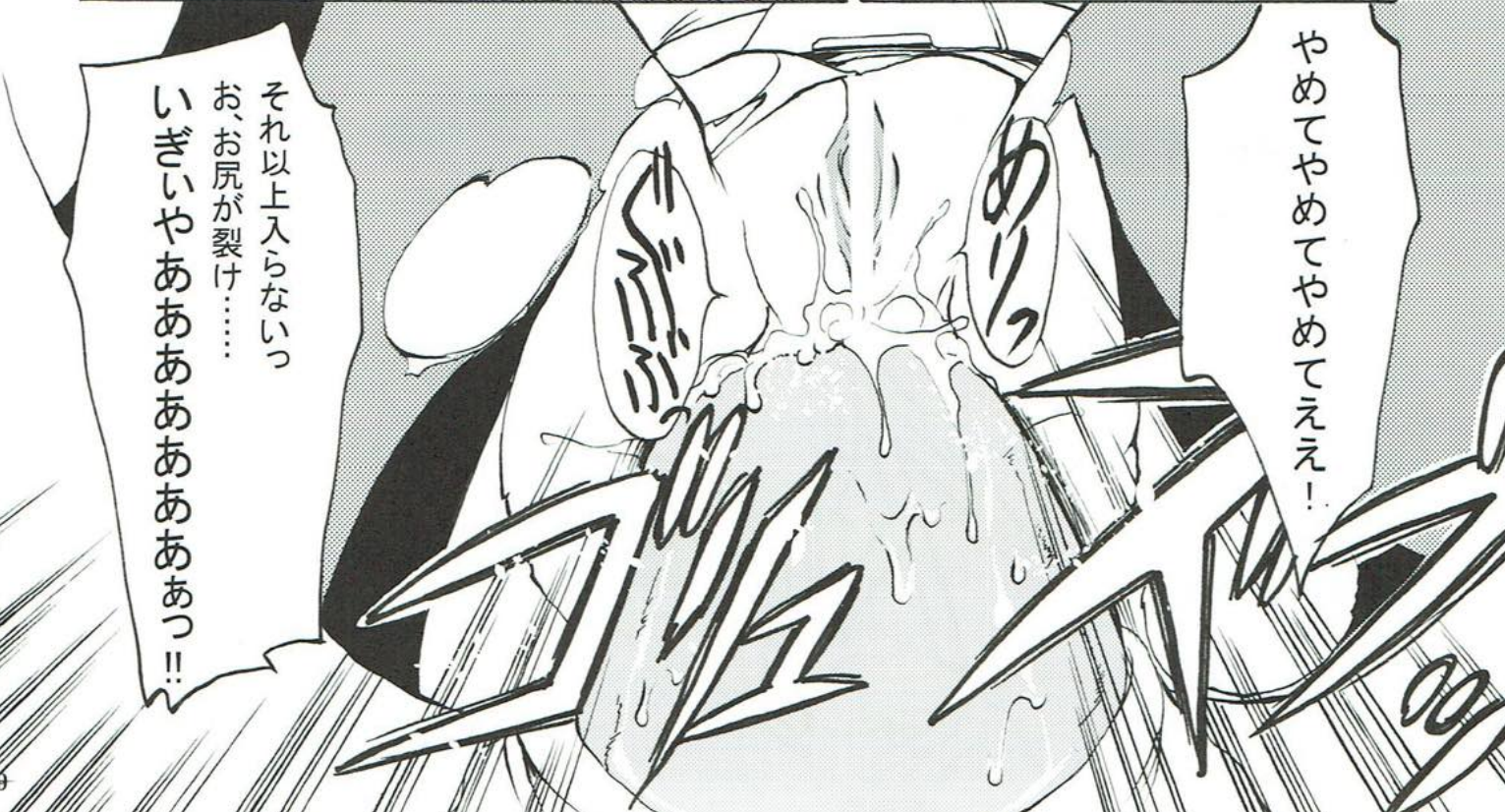
いやあああっ!!
あっ、あああっ!!

うあああああっ!!
あひっ!!



な、何てこと

中で腸液が
吸われて……!



やめてやめてやめてええ!!

それ以上入らないっ
お、お尻が裂け……
いぎいやあああああっ!!



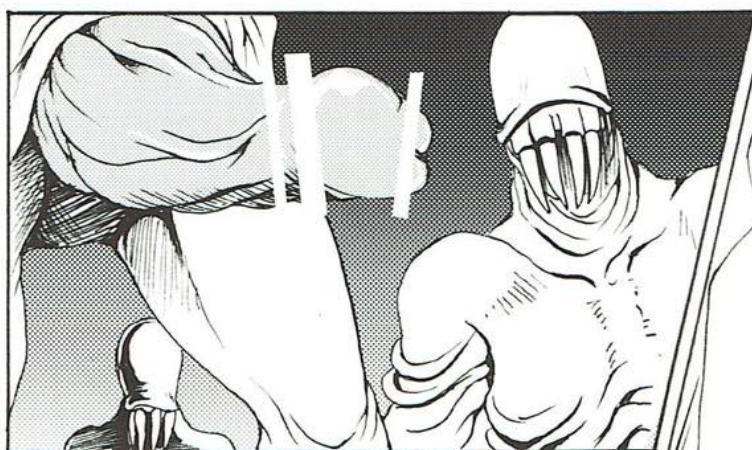
ウ、ウーズの頭があつ！
私の中に……いぎいいいっ！
いやあつ嫌あああつ！！

うあああああつ！！
あぐっ、ひ、ひぎいいいっ！
抜いて、それ抜いてえ！

うぎやっ！
がっ、かふっ！！

ひぎっ！

お、お腹があああつ！！
きいっいっ！！



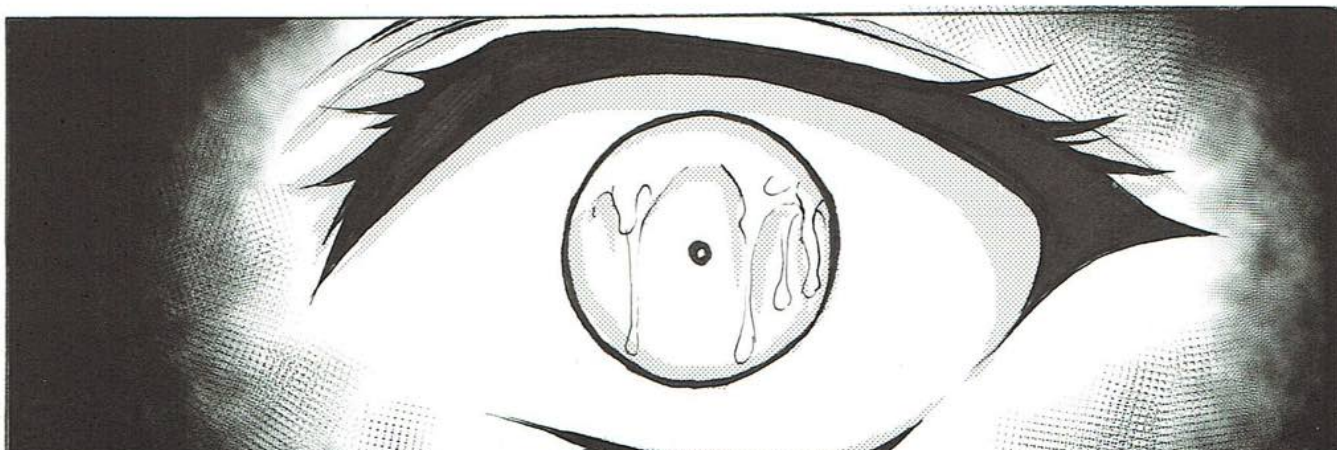
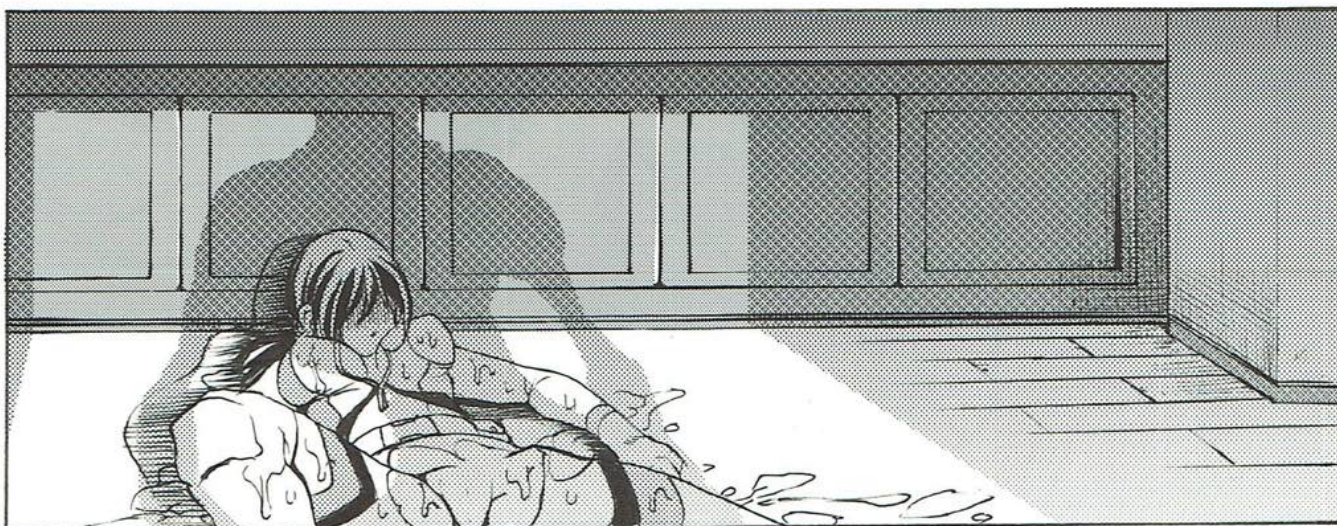
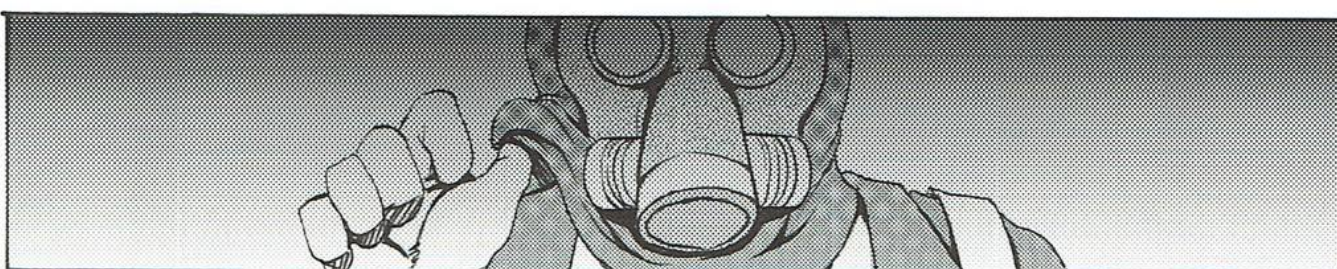
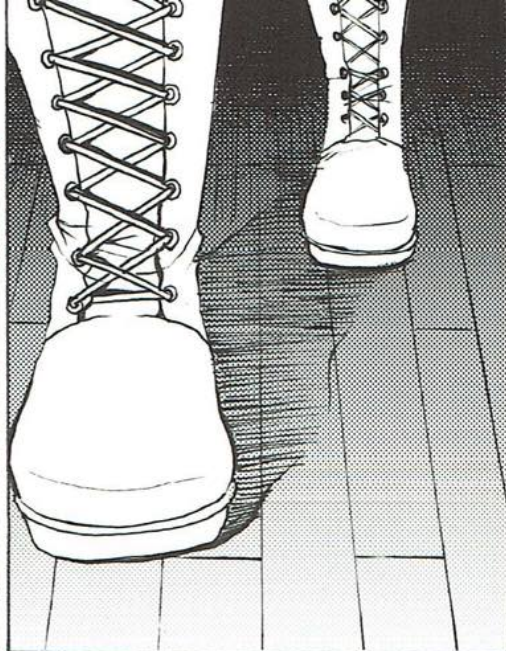
く、苦し……っ！！
壊れ、るっっ！！

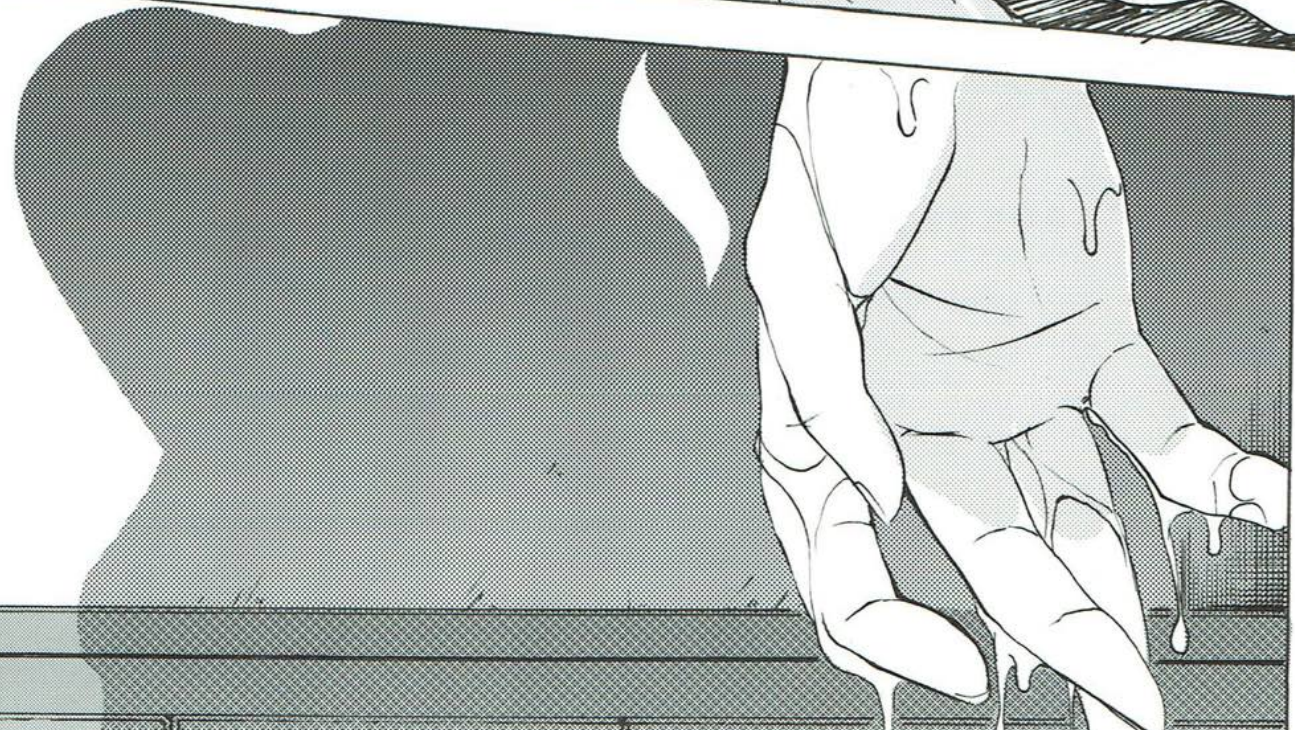


た、助け……
うぎやっ！！

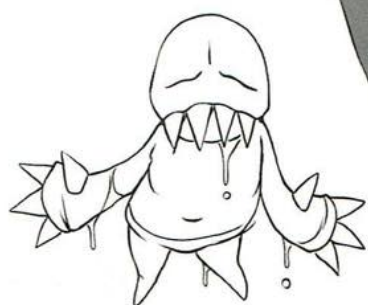
うぎやっ、うぎやっ、うぎやっ……







ごきげんようコハダです。
早速ですがバイオは怖くて出来ないので
田宮さんにプレイを見せてもらってただけでした(汗)
オカルトホラーは大丈夫なのですが
サバイバルホラーはどうも状況を自分に置き換えてしまって
プレイするのが怖すぎてムリーっ！
でもジルさん可愛いね！設定では30越えなのに！
なんか不幸な状況が似合いそうで
化け物ちゃんたちに囲まれてるとニヤニヤしてしまいます。
えっちい絵をコハダも描いて見たかったです！
白くてぬめぬめしていて
柔軟性もあるという
ウーズ兄さんのエロに
おけるオールマイティさは
高枝切りバサミなみに
優秀だということが
よくわかるのです。



しばらくすると
可愛く見えてくるから不思議



ON KEEP OUT

後書き

初めまして。もしくはこんにちわ。
田宮秋人です。

今回は初のバイオハザード本になりました。

と言うのも、実はバイオハザードはこのリベレーションズが私にとっての初バイオなのでした（笑）。

ホラー系は好きなのですが、

今までバイオに手を出したことは無かったですよね……。

リベレーションズの「ゴーストシップになった豪華客船」というシチュエーションに惹かれてはじめてしまいました。

なんだかすごくはまりました（笑）。

次の部屋に移動する時のこのドキドキ感がたまりません。

そして、せっかくツーマンセルで行動しているのに、

すぐに別行動したがる相棒が謎（笑）。

「いかないでよー！」と何度パーカーに追いすがりたかったか（笑）

この漫画は、エピソード2にあたります。

もっとも、漫画では通信が途絶えていることになってますが、実際はパーカーと連絡取れているんですよ。

同人ならではの都合主義と言うことで大目に見てください（笑）。

そして、忙しい中怖い思いをしながらゲスト原稿を描いてくれた
ノ鯖コハダさん、感謝です！ え、嫌がらせじゃないですよ（笑）？
それでは、ここまで読んで頂き有難うございました！

2013/12 田宮秋人 拜

ON KEEP OUT

CAUTION

奥付

「ゼノビアの揺り籠」

発行日 2013/12/31

発行責任者 田宮秋人

発行 銀の星亭

印刷 栄光印刷

連絡 URL <http://www.apuchan.com/>

E-Mail akito@uranus.interq.or.jp

本書の無断転載、および転写を固く禁止いたします。
本書は成人向けです。18歳未満は閲覧禁止です。



BIOHAZARD REVELATIONS



CAUTION FOR ADULT ONLY

田宮秋人 銀乃星亭

ONLY FOR ADULT ONLY